

# 千代田まちづくり サポート通信

2022

6

JUNE

## 賛助会員一覧

### 法人会員

建設業	株式会社楠山設計	不動産業	エヌティティ都市開発株式会社	
	株式会社久保工		住友不動産株式会社	
	株式会社竹中工務店		東京建物株式会社	
	一般社団法人東京都建築士事務所協会 千代田支部		プラットフォームサービス株式会社	
	株式会社ナカノフードー建設		三井不動産株式会社	
	日産緑化株式会社		三菱地所株式会社	
	株式会社日昇緑化研究所		安田不動産株式会社	
パシフィックコンサルタンツ株式会社	株式会社i-tec24			
製造業	KKテクノロジーズ株式会社	サービス業	株式会社弘周舎	
	瀬味証券印刷株式会社		株式会社こどもの館	
	東京スクリーン株式会社		株式会社翔設計	
	株式会社日精ビーアール		株式会社アズーム	
	日本たばこ産業株式会社 東京支社 東京東部第三支店		その他	株式会社イサミヤ
	ノーラエンジニアリング株式会社			合同会社グローバル人材育成サポート
	株式会社ハセツパー技研			株式会社コンベンションリンケージ
ハネクトーン早川株式会社	株式会社住宅あんしん保証			
富士フィルムビジネスイノベーション株式会社	株式会社TALO都市企画			
株式会社ムレコミュニケーションズ	一般社団法人千代田区観光協会			
東洋美術印刷株式会社	NPO都市住宅とまちづくり研究会			
卸売・小売業	鈴木治作株式会社	株式会社バイオレンジャーズ		
	鈴新株式会社	ビヨンドネクストアカウンティング株式会社		
	株式会社トキワ	株式会社フィレール		
	株式会社ユニフォームネット	一般社団法人マンション管理組合支援センター		
情報通信業	株式会社メディアリンク	株式会社メジオ		
	株式会社きらぼし銀行 神田中央支店	株式会社リブリッジ		
金融業	興産信用金庫	株式会社ワンスイン		
	西武信用金庫 神田支店	株式会社And Technologies		
	みずほ信託銀行株式会社			
保険業	株式会社FEA			
	ぜんち共済株式会社			
	日新火災海上保険株式会社 東京事業部 東京西支店			

### 個人会員

池 俊郎 加藤 武夫 小林 誠 佐藤 直樹 瀬川 昌輝  
立山 光昭 戸田 豊重 堀部 剛正 積田 孝一 ほか5名

法人：58 個人：14 計：72

※助成金の一部は賛助会員からの賛助金を活用しています。



助成グループの一年間の活動成果！  
～まちづくりは縁人(エンジン)だ！～

### 【目次】

- P1～2 事業・発表会概要
- P3～12 助成グループの発表概要
- P13 サポート大賞 受賞グループ紹介  
まちサポ事務局topics
- P14 クラウドファンディング  
ミニレクチャー  
審査会委員退任式
- P15～16 全体講評、審査会委員講評
- P17～18 活動マップ

千代田まちづくりサポート通信 No.38 発行 2022年6月

発行者 公益財団法人まちみらい千代田 協働まちづくり・総務グループ(まちづくりサポート事務局)  
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4階  
URL <https://www.mm-chiyoda.or.jp> TEL 03-3233-7556 E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp



まちサポ特設サイト

# 一年の活動成果！

# ちよだのまちづくり！

# Chiyoda No Machisapo

千代田まちづくりサポート(まちサポ)は、千代田区内で自主的なまちづくり活動を行っているグループに対して、その活動経費の一部を助成する事業です。

本号では、第21回千代田まちづくりサポート活動成果発表会の内容を紹介しながら、千代田のまちづくりの「いま」を伝えます。

コロナ禍において活動が大きく制限される中、オンラインを活用したイベントを開催するなど、各グループから工夫を凝らした取り組みの発表がありました。



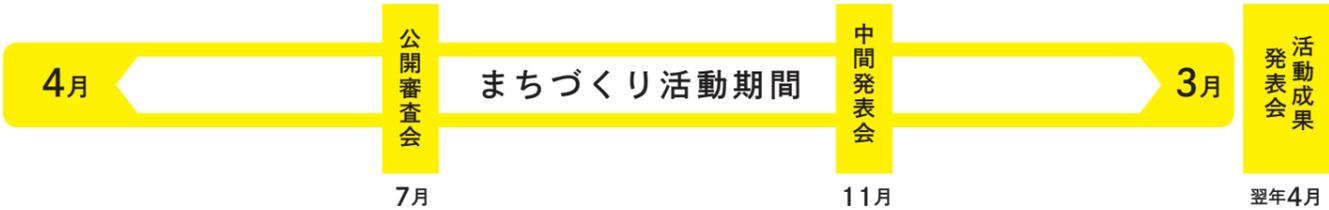
## Schedule 事業スケジュール

応募グループ(はじめて部門を除く)が活動内容の発表を行い、それに対して、審査会委員との質疑応答を行います。その後、助成対象とするグループと助成額を審査会が公開の場で審査・決定します。

助成対象期間の中間における、活動の経過報告を行います。

活動報告書に基づいて、一年間の活動報告を行います。また、審査会委員と助成グループの投票で「サポート大賞※」を決定します。

※助成グループの中で特に優れたまちづくり活動を行ったグループを決定するもの



## 第21回千代田まちづくりサポート活動成果発表会

【開催日】 令和4年4月17日(日)  
【会場】 ちよだプラットフォームスクウェア5階(一般には非公開)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「Zoom」を活用してオンライン形式で開催しました。



### Program

- 13:00 開会  
審査会委員紹介、発表会概要・スケジュール説明
- 13:20 活動成果発表①  
4グループ(各グループ10分)
- 14:00 休憩
- 14:10 活動成果発表②  
2グループ(各グループ10分)  
普請部門年度報告  
4グループ(各グループ10分)
- 15:10 休憩
- 15:20 クラウドファンディングについてのミニレクチャー  
by ちよだニャンとなるCafe
- 15:50 サポート大賞投票・集計、審査会委員講評・全体講評
- 16:20 卒業グループ卒業式、サポート大賞発表等
- 16:35 事務連絡等
- 16:40 閉会

### 審査会委員

- 会長 **中島 直人**  
東京大学大学院工学系研究科 准教授・博士(工学)
- 副会長 **奥村 玄**  
株式会社GENプランニング 代表取締役
- 委員 **朝比奈 ゆり**  
東京ボランティア・市民活動センター 専門員
- 委員 **柿内 健介**  
元千代田区青少年委員
- 委員 **小野寺 健志**  
元千代田区青少年委員
- 委員 **吉田 渉**  
興産信用金庫 お客様支援部 成長支援担当課長
- 委員 **菊池 洋光**  
千代田区 在宅支援課長

### 助成グループ一覧

部門	回数	助成グループ名	ページ
はじめて	-	01 神保町フラメンコの会	3
		02 おかゆスタンド	4
一般	1	03 番町っ子倶楽部	5
	2	04 神田でバンダ	6
	3	05 ちよとも	7
	3	06 グリーンネイバーフッド千代田を目指す会	8
普請	-	07 優美堂再生プロジェクト実行委員会	9
	-	08 「神田珈琲園」再生プロジェクトチーム	10
	-	09 秋葉原・旧旅館【東館】内 ちよだニャンとなるCafe	11
	-	10 海老原商店を活かす会	12

# 01

## 神保町フラメンコの会

“神保町フラメンコ”  
文化の町、神保町をフラメンコで盛り上げたい！！



[代表者] 手下 倭里亜 [活動メンバー] 4名 [主な活動地域(場所)] 御茶ノ水、神保町エリア

### 活動概要

フラメンコには人を元気にするパワーとエネルギーがあります。イベントが開催できない今、オンライン配信とオフラインイベントを組み合わせ、だれもが楽しめるフラメンコのイベントを主催します。イベントではただ鑑賞するだけでなく自ら踊ることができる参加型のものを考えております。



### 発表概要

神保町フラメンコの会は、神保町からフラメンコの魅力を発信したい、フラメンコを通じて神保町の町を元気にしたいという目的で立ち上げた団体です。

神保町は古書店が連なる文化の町として有名ですが、フラメンコの街としても有名になっていけばいいなという思いがあります。

当初の計画では屋外でフラメンコを披露して立ち止まって見てもらう、というイメージで進めていました。

しかし、コロナの影響もあり、なかなか場所を借りることや、人が集まるイベントは許可を得られないという状況にありました。飲食店などのお店でライブをやろうという案もありましたが、やはりお店も人を呼んでのイベント開催には懸念があるようで、なかなか協力してくれるお店を見つけることができませんでした。

そこでオンライン配信イベントを企画することにして、協賛店(配信チケットを購入してもらい、お店のPRビデオを流す)を募るため、神保町周辺でチラシの配布や、SNSでPR活動を実施しました。

開催に向けて具体的な活動を進めていたのですが、コロナの感染拡大が続き、協賛店が少なくなったことで、大幅な赤字が見込まれてしまい、中止を決断しました。

しかし、何もできないままでは良くないということで、メンバーの間で苦悩しながら考えた結果、スタジオでサロンコンサートを実施することにしました。感染対策をしながら限られた人数ではありますが、参加者に生のフラメンコを感じていただきました。

また、スタジオ近くの飲食店「グランタイムカフェ」とコラボして、サロンコンサートを見ていただいた方を対象に、フラメンコディナーコースを提供していただきました。ワンドリンクサービスは、参加者からは大変好評でした。

お店から「今後も一緒にコラボしたいですね」という力強いお言葉をいただきましたので、引き続き実施していければと考えています。

さまざまな制約がある社会情勢の中で、メンバー間で知恵を出し合い実施できた企画があったことはグループにとって、大きな意味があったと思っています。



### Q & A



Q 報告書の中でほかのグループがどう活動しているのか知りたいと記載がありますが、事務局に話しを聞いたりとかはなかったのか。

A 事務局に直接聞かなかったが、メール等でイベント情報の配信はされていた。

Q グランタイムカフェとのコラボの中で、次の展開に進む中で課題はみえてきたか。

A 食事とライブを別にしたが、食事をしながらフラメンコを見るというスタイルにしていきたいが、しばらくは感染状況を踏まえながらコラボしていきたい。

# 02

## おかゆスタンド

朝がゆで“ほっと”をお裾分け



[代表者] 佐藤 史織 [活動メンバー] 3名 [主な活動地域(場所)] 番町エリア

### 活動概要

早朝をメインにリヤカーを利用して、番町でオープンエアの場所におかゆスタンドを立て、朝がゆをお裾分け(提供)します。おかゆをメインに、要望があればおにぎりやコーヒーもお裾分けし、なくなり次第終了します。年3回程度の不定期開催で「美味しいおかゆ」を通じて地域の方々と交流を図ります。



### 発表概要

コロナ禍ということもあり、なかなか2回目のおかゆスタンドを実施することができませんでしたが、まん延防止期間の空けた、4月2日に開催することができました。会場は「番町の森」事務局の方にご協力いただき、場所を提供してもらえました。

1回目の開催から次の企画について、案を練っていく中で、なぜ朝粥が必要なのかということ、文章等を通じて伝える必要性を感じたため、おかゆスタンドのショップカードを作りました。

しかし、今回のイベントを開催するにあたり千代田区保健所さんにいろいろ相談したところ想像していなかった高いハードルがありました。

まず、「食品取り扱い」を行う場合は、「営業許可」または「臨時出店」の届出が必要ということがわかりました。

また、「臨時出店」にあたり、相当設備が必要ということが分かり、このままだと予算的に厳しいという結論に達しまして、調理済みの常温保存可能なおかゆを配布しようという取り組みに切り替えました。

こうして、ようやくおかゆスタンドの開催ができるということになり、広報活動を開始いたしました。

前回の中間報告会の際に、審査会委員の方から、もう少し広報活動をした方が良いのではないかとアドバイスがありましたので、千代田区広報掲示板にポスター掲示をいたしました。これが結果的に成功しまして、当日イベントに来場した方は掲示板を見て来てくださった方がほとんどで千代田区広報掲示板の影響を感じました。

イベント当日は少し早いかと思ったのですが、朝8時半からオープンしました。オープン前から来てくださっていた方も多くいらっしゃいました。

そのため、約30食用意していたお粥も開始15分ぐらいですべて無くなってしまいました。

思いもよらぬご近所さんと再会でき、また、私たち自身も近くに住んでいたのに全然知り合う機会がなかった住民の方とふれあいをさせていただくことができました。

### Q & A



Q 時間の関係で伝えきれなかった部分があればぜひ聞きたい。

A イベント開催にあたっての手順や行政の仕組みを勉強することができたため、次回開催時は温かいおかゆを提供できるようにしたい。そして、そういったノウハウを若い世代に伝えていきたい。

また、まちサボ事務局には今後「より良い地域創生」「千代田のまちづくり」に貢献したいという市民のために、資金面のみならず、「まちづくりのプラットフォーム」として、ここに相談すれば何でも解決・実現するという信頼ある「ワンストップ窓口」になって、未来の活動グループのサポートをしていただきたいと思います。



# 03

## 番町っこ倶楽部

馬と遊び、馬に学ぶ



【代表者】佐藤 洋平 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】番町の庭

### 活動概要

番町地域を中心に地域コミュニティの形成に向けて、馬と子どもたちのふれあい体験イベント「馬と遊び、馬に学ぶ@番町の庭」を実施します。これまでは自己資金で開催してきましたが、今後は企業、住民の皆さんと協議し、イベント内容を磨き上げ、持続的な活動を目指します。



### 発表概要

今年で6回目の馬と遊び馬と学ぶというイベントを開催することができました。昨年までは番町の庭で開催していましたが、9月に番長の森がオープンしたので、場所を移して開催しました。活動は例年どおり、馬にブラシをかける等の触れ合い体験、馬にまたがり記念撮影をするといった内容です。やはり緑が多くなって開放的な空間になりましたので、非常に活気があったというのが感想です。今年度は実施できなかった、「番町の食卓」というイベントも今後実施したいと思っています。今年度からの新たな取り組みとして、「番町の畑」を作り、「番長の森」の中でにんじんや二十日大根、ロマネスコを栽培しました。種まきの際には近くの保育園の園児さんにも参加していただきました。そのほかには、番町っこクラブの活動を応援して下さっている企業・個人の方から、クレヨンを寄贈いただき、イベントの際に使用しました。しかし、数が多かったこともあり、せっかくだったら地域の子もたちにも使ってほしいと考え、番町地域にある公立や私立の保育園に送りました。そのことで、千代田区教育委員会から感謝状をいただきました。日本テレビの番組では、番町っこ倶楽部の活動を集めた「来年もやりましょう」というお話をいただきました。また、まちみらい千代田広報紙に掲載され、「次いつ開催しますか」という、多くのお問い合わせをいただきました。次年度に向けた課題としては会員を作って活動を続けていくという点だと認識しています。

### Q & A



- Q 参加している子どもはリピーターが増えているのか。
- A 番町地域の家庭は教育熱心なので4年生以上になると受験でこういった活動に参加してくれなくなるため、入れ替わりが多い。
- Q 開催期間は午前中のみだが、時間を延ばしているとかプログラムを変える予定はあるのか。
- A 馬が長時間のイベントに耐えられないため、開催回数を増やしていくといった展開を考えている。
- Q 会員制にするということは資金源を確保する、また助成期間終了後の活動を継続するような仕組みをイメージしているのか。
- A おっしゃるとおり、持続可能性を考えた場合、会費を取るのかクラウドファンディングを活用するのか、いろいろな考え方があると思っている。また、不特定多数だと区民館の会場を使えない等の制約があったので、そういった面を解決する一つの手段として会員制ということ考えた。

# 04

## 神田でパンダ

「神田でパンダ」  
神田のまちをパンダで盛り上げよう



【代表者】石垣 曜子 【活動メンバー】8名 【主な活動地域(場所)】神田錦町キンキン広場、神田警察通りなど

### 活動概要

“STAY HOME”によりマンション住民の方々は地域のきずなの重要性に気づき、地元企業の方も地域への責任を感じ取っていただけていることと思います。その中で、昨年投票で決定したパンダキャラクターで、遊び心をもって街のさまざまな場所に広めることによって、神田の街を盛り上げます。



### 発表概要

本日の成果発表会では2月に予定していたリアルイベントを、昨日ようやく開催できましたので、その報告をさせていただきます。神田でパンダ祭りという題名を付けて、ここ数年神田まつりが中止になっている中で、少しでも楽しみを持ってもらえないかという思いから開催しました。キンキン広場で開催したところ、来場者は延べ420人と大盛況のイベントとなりました。神田明神ならぬパンダ明珍というのを作りまして、それを中心にしたイベントにしました。箱型のパンダの形の山車を、みこしとして担げるようなデザインでアーティストさんに作成いただきました。それ以外にパンダの顔出しパネルやパンダの着ぐるみなども用意しました。パンダの口の中に手を入れるとおみくじが出てくるというちょっとした仕掛けも用意して、子どもたちに喜んでもらえるよう工夫しました。地元の町会長のほか、協賛のデベロッパーや千代田区長にも来ていただき、にぎやかな会となりました。また、パンダパレードという名前で警察にご協力いただき、神田錦町を大体20分ぐらいかけて、ぐるっと一回りました。別会場では海苔巻きのアートというイベントをおこない、海苔巻き教室を実施しました。また、以前から実施したかったまち歩きを、小規模ながら今回のイベントで実現しました。パンダでかくれんぼという名前で神田錦町のお店六か所にご協力いただき、QRコードとARを使って携帯で読み込むとパンダが出てくるという方法でお店を回ってもらいました。規模が大きくなってきてしまい運営スタッフがとても大変だったというのが今年の反省点です。この活動を続けて行く場合スタッフが増えるような形でない、仕事をしながらのまちづくり活動というのは難しいなということを実感しました。

### Q & A



- Q どのように法政大学とつながったのか。
- A まちサボで千代田区の学生さん向けの講座を開催した際に、その講座の1コマで神田でパンダを呼んでいただいたことがきっかけです。
- Q 忙しくなると仕事との両立が困難となる。過去に同じような悩みをもっている団体もあったので、ノウハウに事務局に聞いてみてはどうか。
- A 相談してみます。



# 05

## ちよとも

千代田で楽しくつながり創り  
楽しく/承認しあう/安心の場



【代表者】高橋 孔明 【活動メンバー】9名 【主な活動地域(場所)】千代田区高齢者総合サポートセンター・かがやきプラザ 相談センター

### 活動概要

毎月1回多世代交流の場としてオンラインによるイベントを中心に「ちよとも」を開催し、区内在住者や在勤者に新しいつながりを生む場を提供していく。また、年代・性別・国籍を問わない多世代交流の場を提供するとともに、ちよだにつながる情報も提供します。



### 発表概要

千代田区でともだちをつくらうということを主旨に「ちよとも」を始めました。2019年9月に第1回を開催し今年で46回となります。

「ちよとも」の参加者同士が気楽に話し合うことで新たな人とのつながりができる機会を提供できました。

趣味のサークル活動や特定のテーマを掲げたボランティア団体は参加者が特定され閉鎖的になりがちです。それに対して「ちよとも」は誰でも気楽に参加でき、ハードルの低さが良いところです。地域活動への最初の一歩を踏み出すきっかけとして「ちよとも」の意義は大きいと思います。

また、運営メンバーによる定期ミーティングを継続しています。イベントの企画を練ることが目的のミーティングですが、雑談を含め楽しく話し合う機会になるので、このこと自体が「ちよとも」だと感じます。

一方、継続することの難しさをこれまでの活動の中で感じました。

特に「ちよとも」はテーマを持たず、話をしながらつながりましょうという会だったので、コロナ禍も影響し、対面で集まって話せなくなったことで、苦労がありました。

そこで運営メンバーの中で話し合ったところ、デジタルでいろいろやれるのではないかとということで、ゲストスピーカーを呼んでイベントを実施しました。

どこのグループも同じかと思いますが、集客にかなり悩み、ホームページやFacebook、Peatixを使いながら集客を進めました。

また、防災をテーマに「防災寄り添いサポーター」を千代田区に住んでいる3名で結成して新しい活動を開始しました。テーマとしては防災なので、「ちよとも」と連携しながら活動できれば、もともとのちよどもの意味があるかなと思っています。助成金は無くなりますが、これまでの蓄積があるので、それを生かしながら活動していきたいと考えています。

### Q & A



Q 新しく防災をテーマにした活動を一部で始めたとのことだが、活動を生み出すことになったきっかけは。

A もともと別の自治体でも似たような活動をしていて、派生的に活動を増やしていたので、そのイメージを持ちながら活動していた。



# 06

## グリーンネイバーフッド千代田を目指す会

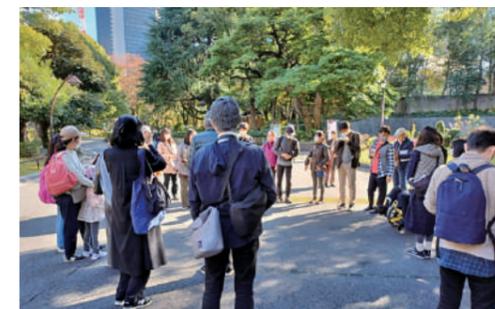
withコロナの中、  
千代田からサポートが必要な人たちも参加できるイベントを発信する



【代表者】林 昌明 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】日比谷公園など

### 活動概要

千代田区内で得意な五感が違う人たちが参加する自然観察会を開催します。助成3年目の集大成として、これまでの活動で得たノウハウをまとめたガイドブックを作成し、それに準拠したイベントを開催します。また、その結果をガイドブックにフィードバックします。



### 発表概要

ハンドブックの作成とハンドブックに準拠したイベントの開催ということで、中間発表後に実施しました。

参加者は現地参加22名、Web参加5名、サポートが必要な方8名でした。参加された方の年代は、未就学児から70代の方まで幅広く参加していただきました。

また、運営ボランティアということで共立女子大学の学生さんにも10名ご参加いただきました。

審査会委員の皆さんのお手元にある、イベント開催ハンドブックは、3月に完成いたしました。

イベント開催にあたっては事前にリハーサルを実施しまして、Zoom参加の人がどのように見えるのかということや、音声確認も実施しました。

また、UDトークという音声認識アプリを使い、障害があって声がうまく出せない方とリアルタイムでコミュニケーションを取れるツールを利用しました。

午前中のワークショップでは、まだまだコロナ禍ということで接触を考えなければいけない時期でしたので、iPadやパソコン等を活用しながら参加いただきました。

オンライン参加の方には全盲の方も参加していたため、心配していましたが、参加者同士サポートし合いながら、うまくご参加いただいたかなと思っています。

午後は日比谷公園を自然散策しながら、撮影班を設けて講師の話す音声と映像を配信しながら、4~5名で班になりつつ、通信機器を利用し、密にならないよう現地で自然に触れることができました。

イベント中、落ち葉を拾う場面があったのですが、車いすの方は拾えないので子どもたちが自主的に拾うなどしてサポートし、うまく実施できました。

ハンドブックについてはWebでPDF版も公開します。

記載内容としては私たちの会についての紹介や助成についての案内、また先ほど紹介したイベントの事例紹介やイベントのスケジュール、参加者や運営側のコメントを記載しております。ぜひ一読いただければと思います。

### Q & A



Q ハンドブックを作成するにあたって一番難しかったり苦労されたことは何でしたか。

A 打合せ回数が多くなり、弱視の方への見え方やいろいろな方からの思いをいただいたがそれを集約するのが大変でした。

Q 冊子をどのような人たちに届けていくのか。また発行部数はどれくらいか。

A まずはまちサポで過去に出会ったグループに渡しに行く。また、自分たちでもイベント開催して、参加者に配布していく。  
発行部数について今のところ50部ですが、増刷は可能なので今後配布していきたい。



# 07

## 優美堂再生プロジェクト 実行委員会

千代田の建築文化遺産と言える  
優美堂を保存再生する



【代表者】中村 政人 【活動メンバー】4名 【主な活動地域(場所)】優美堂(神田小川町2丁目)

### 活動概要

絵画の額縁店・ギャラリーで、また住居でもあった優美堂を世界のアーティストが滞在制作するアーティストインレジデンスプログラム(AIR)を通して、地域コミュニティの国際文化交流が生まれるクリエイティブサロンとして再生する。建物は構造補強をして、木造建築を生かした工法でリノベーションする。



### 発表概要

優美堂再生プロジェクトの活動目標の1つに壁画を含む建築的再生があります。再生前の富士山の看板は廃墟感があったのですが、現在はOJUNさんという日本を代表する画家の方に富士山の壁画の原画を作成いただき、まち自体が明るくなったように思います。

建築的改修についても、構造補強等は終了しました。既存不適格の建築のため、現行法規では対応しきれませんが、最大限の安全性を考慮した設計と施工を行いました。

昨年の7月ぐらゐまで改修工事がずっと続き、コロナ禍だったので一時中断したときもあったのですが、その後はおかげさまで運営を続けさせていただいております。

2点目の活動目標として、優美堂プロジェクトメンバーとの経営、運営体制づくりです。優美堂の建築改修にボランティアで携わった人や優美堂がおもしろいということに活動に参加したいという人が少しずつ増えてきていて、Facebookで情報共有しており、名簿上は50人のメンバーがいます。

年齢層は大学生から50代の人まで幅広く在籍しています。

大事にしているのが自然に、小さな自己実現欲求が達成されるということだと思っています。アートの世界は絵を描くことで自分のビジョンを一枚の紙に定着させる中で、自分のこういうことを作りたいという欲求が小さな単位で生まれていきます。

そのため、自分は「こういうことができるんだ」、「こういうことがやりたいんだ」ということをお互い支え合うような交流拠点を運営していきたいと思っています。

また、活動自体は小規模のワークショップを何度か開催しており、メディアにもよく出演しています。

今後の活動としても小さな活動を増やすということをベースにしなが、交流拠点として活発にしていきたいと考えています。

### Q & A



Q 大家さんとの関係性はどうか。

A 非常に良好でよく遊びに来てくれている。

Q 神田で暮らしてみてわかったことは何か。

A グランドレベルに住めることの価値だと思う。近所の人たちとコミュニケーションをとることで東京に住み始めたという実感がある。

Q 富士山の壁画は何かを表しているのか、地下室はどうなっているのか。

A 富士山は銭湯画のようにステレオタイプのイメージを皆さんお持ちだと思いますが、あえて抽象的な要素を取り入れたOJUNさんをお願いすることで現代的な富士山が生まれてきた。

街の中に大きな絵があるということは 広告とは違うのでまちの美観を考えてくうえで大事な景観因子だと思います。

地下室は防空ごうになっており、一時期公開していたが、コンクリートの劣化が見られたので、もし公開するならば劣化の対処をして安全面を確認する必要がある。

# 08

## 「神田珈琲園」 再生プロジェクトチーム

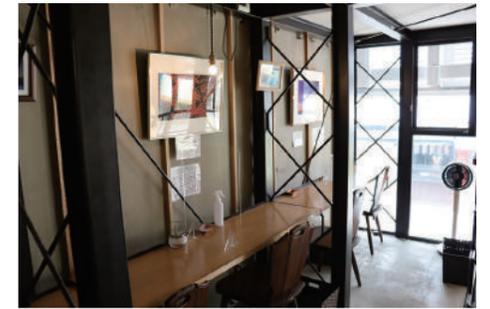
JR神田駅高架下で創業60年、  
地域に愛され続ける『神田珈琲園』の再生



【代表者】八戸 建 【活動メンバー】10名 ※応募申請時 【主な活動地域(場所)】神田珈琲園(鍛冶町2丁目)

### 活動概要

神田珈琲園において『時間と場所の提供』をしています。主に店内の壁面を活用した展示ギャラリーや地域の交流・活動スペースとしての利用、まちの情報発信のHUB的な役割を果たすこと、神田駅周辺の変遷などを学ぶ勉強会、コーヒー豆や焙煎に関する勉強会などを実施します。



### 発表概要

1957年からJR神田駅の下で創業している神田珈琲園は、高架耐震補強に伴い移転を迫られました。

しかし、何としてもこの地で営業を続けたいと考え、まちづくりサポートの普請部門に応募し、耐震補強工事後に新たな店舗を再建して2020年の7月に営業を再開することができました。

本当にたくさんの方からご支援いただいております。最近クラウドファンディングに挑戦して新しいファンの方からの応援もいただいております。

また、同じ普請部門のちよだニャンとなるCafeさんとコラボして、常連のイラストレーターさんに子猫のイラストグッズを作ってもらい、その販売利益を寄付させていただくことをしております。

昨年新しく始めたこととして、海老原商店さんと現代画家さんの展示期間中に来場いただいたお客さまに美味しいコーヒー振る舞いたいというリクエストを受けて、美味しいコーヒーの入れ方出前講座を実施しました。

また、千代田区社会福祉協議会さんに地域サロンの場として登録されており、地域で活動されているグループの皆さんが打ち合わせやイベント会場の場所としてご利用いただけるようになっております。

今回の発表会でPRしたい点として、神田珈琲園のアプリをご紹介します。4月中は50円引きクーポンが配信されていますのでぜひご利用ください。アプリを活用してイベントの通知とか特典配信等、いろいろチャレンジしていきたいと考えています。

また、まちづくりサポート通信や散歩の達人、建築系の雑誌、海外のメディアにもいろいろ取り上げられていただいております。

こうしてメディアに取り上げていただくことが、地域の皆さんの資産として誇りにしていただけるかなということでもうれしく感じています。

コロナ禍ということもあり、経営的には苦しい状況が続いていますが、地域の皆さんに支援していただいておりますので、今後も引き続き地域のため、人とのつながりをつくっていく場となるような取り組みを続けていきたいと思っています。

### Q & A



Q 今後実施していきたいことがあれば教えてください。

A 高齢者のサポートや、認知症の家族のサポートに取り組んでいきたい。また、新しくできたアプリ等を活用しながら、ほかの団体とコラボしたいと考えている。

Q 建築系の専門の雑誌に取り上げられるというのはすごいことだと思う。関わった皆さんはどのような感想をお持ちだったのでしょうか。

A デザイン性が評価されたという部分はもちろんあると思うが、背景にあるエピソードについても魅力に感じて、評価していただけたのではないかと考えている。



# 09

秋葉原・旧旅館【東館】内

## ちよだニャンとなるCafe

秋葉原に残る昭和20年代の建造物を改修し、千代田区のブランドである「猫」をテーマにしたコミュニティカフェをひらく



【代表者】香取 章子 【活動メンバー】7名 ※応募申請時 【主な活動地域(場所)】秋葉原・旧旅館【東館】内ちよだニャンとなるCafe(外神田4丁目)

### 活動概要

コミュニティスペースで猫をテーマにした各種イベントを実施します。具体的には子どもを対象とした、お話し(猫絵本の読み聞かせ)やワークショップの開催、全国の猫問題の改善に向けての普及啓発の場として、猫に関するセミナーの開催、猫に関するアートの展示、音楽、落語等、定期的な開催でコミュニティの育成を行います。



### 発表概要

2018年10月22日に開業し、2022年3月で約3年半が経ちました。今年度もコロナ禍で感染防止対策のため、基本的には休業していますが、保護猫たちの滞在场としては継続利用中です。また、今年に入ってからはコロナも落ち着いてきたので週末は予約制でご利用いただけるように、ホームページを少し改修しました。しかしながら、コロナ禍の経済状況悪化等で遺棄される猫も多く、秋葉原店の収容頭数は常に満杯状態でした。改善策として、保護猫カフェの2号店を新たに開設することを検討し、開設資金はクラウドファンディングで募りました。無事に開設資金が集まりましたので、1月22日に「ちよだニャンとなるカフェ神田神保町」をオープンしました。2号店はまちづくりサポートの助成対象物件ではないのですが、まちサポとの出会いが無ければ2号店もなかったと思います。古民家改修を実施し、クラウドファンディングで資金を集めるという経験やノウハウと、カフェを運営してきたという自信があったので2号店開店に踏み切れたのだと思っています。また、2号店はもともと秋葉原店で実施したかった地域の活性化がかなりできています。近隣の小学生も多く遊びに来ており、ジュニアボランティアとして学校帰りに毎日来てくれています。春休み中は、お弁当をもって朝から来てくれたりと、とても熱心に活動しています。もともと、こうした交流を熱望していましたので、今回の成果は大変うれしいです。マンション住まいの子どもばかりなので、秋葉原店のお話をすると古民家という点に興味を持って行ってみたいと言ってくれるので、もう一度秋葉原店の活性化を目指していきたいです。また、2店舗目も開店したことで秋葉原と神保町のまちの特性の違いが感じられてとても勉強になりました。

### Q & A



- Q 秋葉原のお店と神保町のお店の設備的な違いあるか。例えば小学生が入りやすいような設備とか。
- A 設備的な違いはまったくなく、外観が秋葉原は古民家、神保町は雑居ビル(4階)という違いのみとなっている。そのため、雑居ビルの4階の方がデメリットかなと思っていた。しかし、近隣の小学生がカフェのことを広めてくれたことにより、活性化につながった。
- Q 番町、麴町への出店計画はありますか。
- A 大本の事務局は番町なので、可能性としてはあればやりたいと考えている。

# 10

## 海老原商店を活かす会

神田に残る、近代建築史の生き証人とも言える「看板建築」の代表的な事例、海老原商店を改修し、長寿命化を図るとともに、生きた活用方法を提案する



【代表者】海老原 義也 【活動メンバー】9名 ※応募申請時 【主な活動地域(場所)】海老原商店(神田須田町2丁目)

### 活動概要

海老原商店の保存活用をできるだけ地域を巻き込みながら実践していくことで、看板建築や古民家等のことを多くの人に知ってもらい、地域の歴史文化遺産としてだけでなく、地域活性化の活動拠点となる地域の資源として利用してもらうことで、保存活用の応援者あるいは担い手となっていただけるような活用プログラムの企画・運営を目指しています。



### 発表概要

今回の発表ではこの5年間実施してきたことを振り返っていききたいと思います。最初に、写真家の齋藤陽道さんの展示会を開催したところ、著名人の谷川俊太郎さんを含め1日に約400人のお客さんが来場しとても盛り上がりました。また、毎年恒例となりました、夏の音楽フェスティバルはいろんなアーティストさんに1日に10組ぐらい入れ替わり制で演奏してもらっています。作家の永井智子さんの展示会は週末のみ一か月間実施しましたが、すごく反響をいただいて、このときに来てくれたお客さんとの縁がまだに続いており、その後の展示会や活動の基盤となり、転機となった展示でした。もちろん一回一回の展示だけで終わってしまうこともあるのですが、継続している活動もたくさんあります。例えばダンスを海老原商店の中で行ない、それを秋葉原の街の中まで広げていくというプロジェクトがありまして、この活動は現在も続いています。だいたい月に1回から2回ぐらい実施しており、ダンサーの青木尚哉さんが主催しています。この活動を近くの保育園の方にご紹介したら、すごく気に入ってくれて、青木さんはその保育園の運動会のプロデュースをしたり、保育園の園児さんが海老原商店に遊びに来ることで、とても良い交流が続いています。最近で一番の大きな出来事は千代田区の方と一緒に、国の登録有形文化財に挑戦していることです。建築の専門家である、西村幸夫先生にもご協力いただいて意見書を書いていただき、今年中には登録されるのではないかと期待しています。最後になりますが、一番言いたいことは今までこの海老原商店が建ち続けてこられたのは皆さまのおかげだと思っています。発表資料にあります写真のように、多くの方が来てくれるというのが、うれしくてこれこそが僕が目指す姿だったなと思っています。最近知り合った設計士の方に、「景観10年、風景100年、風土1000年」という言葉をいただきまして、海老原商店はやっとならば神田の風景100年にはなれたかな、近づいているかなと思うのですが、何とか風土1000年を目指して今後も頑張っていきたいと思っています。

### Q & A



- Q ネットワークや縁をどのように維持しているか。
- A 海老原商店でイベント開催した方が、別の場所でイベントを開催したときなどに積極的に顔を出すようにしている。そこで、また新しいつながりができたりするので、それが活動の広がりの秘けつかもしれない。
- Q 保育園の運動会をダンサーの方がプロデュースしたというのはすごく良いと思った。海老原商店の活動が与える影響についてどのように感じているか教えてほしい。
- A マンション住民の方とコミュニケーションを取るのは難しいが、町会長と連絡を取り合い、町会の会議でチラシを配っていただいたりしたところ、認知度が上がっているように感じている。また、サポート事業でいろいろなサポート団体を利用してくださるので、その活動を通じてまた広がりを感じている。

## サポート大賞 受賞グループ紹介



### 神田でパンダが サポート大賞を受賞!

カンダ...パンダ



審査会委員と参加グループの投票により、「神田でパンダ」がサポート大賞に選ばれました。  
 コロナ禍でさまざまなイベントが休止する中、「かんだdeパンダまつり!」では延べ420名の来場者数を記録するなど、千代田のまちの活性化に大きく貢献しました。  
 「神田でパンダ」は一般部門で二回目の助成を受けており、さらなる活動の発展や継続に期待します。

## まちサポ事務局 topics

まちサポには「はじめて部門」「一般部門」「普請部門」のほかに「**テーマ部門**」があります!

テーマ設定者  
(企業・団体など)  
**募集中**

### ■テーマ部門とは?

企業や団体などが関心のある分野に対して活動するグループを募集する部門です。

### ■設定するテーマの例

- (1) 地域に根ざしたコミュニティイベントの企画運営をしてほしい
- (2) 無償提供できるスペースを運営し、人が「集う」「交わる」「楽しめる」イベントを開催してほしい
- (3) ビルの屋上ファームで、千代田区の特産品となるような野菜や植物を栽培してほしい

### ■過去に設定されたテーマ

- (1) まちづくりサポートに関する提案  
 応募グループの活動テーマ：千代田まちづくりサポート ボトムアップ計画
- (2) マンションコミュニティに関する提案  
 応募グループの活動テーマ：千代田区居住の単身者のコミュニティを育成・支援し街につなげるプロジェクト
- (3) **ちよだマンション・カフェ**  
 (マンション内コミュニティの醸成及びマンション居住者と地域住民の交流促進)  
 応募グループの活動テーマ：同上

### ■応募条件

- ・助成対象グループへの助成金拠出 (資金提供)
- ・審査会委員の一員として、「公開審査会」「中間発表会」「活動性成果発表会」などへの出席
- ・助成対象グループや事務局等と活動の情報共有および意見交換

お気軽に事務局へお問い合わせください!

まちづくりサポート事務局 ☎3233-7556 ✉machisapo@mm-chiyoda.or.jp

## クラウドファンディング ミニレクチャー

各助成グループからの活動発表後に、ちよだニャンとなるCafeの古川さんにクラウドファンディングについてのミニレクチャーを実施していただきました。



## 審査会委員退任式

第21回千代田まちづくりサポート成果発表会をもちまして、以下の審査会委員が退任されました。

中嶋 直人 会長  
朝比奈 ゆり 委員  
菊池 洋光 委員



朝比奈 ゆり 委員



中嶋 直人 会長

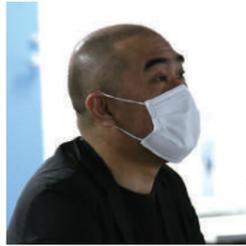


菊池 洋光 委員

第22回千代田まちづくりサポートからは新たに以下の審査会委員に審査をお願いします。

後藤 智香子 委員  
三友 奈々 委員  
小玉 伸一 委員

## 全体講評



審査会会長  
中島 直人

本日参加いただいた助成グループの皆さま、この場をサポートして下さった皆さま、ありがとうございますございました。

たくさん委員の皆さんからお話が出ていますが、本当にこの1年間皆さんしっかりと活動して下さったことを共有していただいて大変有意義な時間だったと思います。

私の方からは、3回目のグループについてお話ししたいと思います。最終発表会の雰囲気というか千代田まちづくりサポートの役割・イメージを決めるのは3回目のグループ、一番先輩のグループだと思います。今回は「ちよとも」と「グリーンネイバーフッド千代田を目指す会」ということで、両グループについては、1回目のときに私は票を入れたのかなあと

いう感じで、印象があまり強くなったとか、何か活動内容がはっきりとしない印象でした。ほかのグループだと、フラメンコやおかゆなど、はっきりとしたイメージがあるのですが、両グループは何か問題意識を持っているのですが、実はあまり派手な成果ではなかったかも知れません。3回続けてこられて、今回の発表でやってこられたことが明確になりました。目に見えない成果というか、時間がかかることは、まちづくりにとってはとても大事で、そのことに両グループは取り組んでくださったと思います。目に見えないままで終わっていいのかと言うとそうではなくて、このような会を通じて、具体的な成果として報告してくれたと思います。なかなか見えづらい知恵や経験を最後にこのようにまとめていただい

て、次に継承できることは、3回やってきたからこそ活動内容が伝わったように思います。

千代田まちづくりサポートでは、つい派手な成果を求めがちになり、数字で成果を出さないといけないなどと思う人もいるかもしれませんが、必ずしもそうではなく、違う成果の出し方も必要です。今日の会の趣旨として、ノウハウという知恵というか、それがたくさん出てきて、それを継承する場としての報告会は、審査会とは違う会だと改めて思いました。普請部門の場を運営しているグループの皆さんの発表、場を使う一般部門のグループの発表は、両者それぞれの視点からの発表だったと思います。

千代田まちづくりサポートの初期に出版された本がありますが、その本では「千代田まちづくりサポー

トは、まちづくりは縁人(エンジン)だ！」と書かれています。まちづくり活動を通じて、人と人との縁が復活していくことが根底にあります。今日の皆さんの活動報告を聞いていると、そういうことができていたと感じました。また、その本には行政ではなく、区民自身がこれを運営していくシステムになっていくことが将来像だと書かれています。助成システムは審査側・応募側に分かれてしまっていますが、仕組みやお互いのノウハウを共有することで、一つのエコシステムみたいなものが出来上がります。その中に新たな参加者が入ることで、システム自体も活性化し、それを生かすこともできます。皆さんのアンケートを見ると、このエコシステムは見えづらいという印象を受けました。運営側としては、それをどのようにし

て、はじめての人にも伝わるシステムに改善する必要があると思いました。

来年はコロナ渦でも懇親会等は行うべきだと思います。ぜひまた応募していただいて、千代田区のまちづくりのエコシステムを活性化していただくことに参画していただければ、20回以上やってきた千代田まちづくりサポートも次の展開が見えてくるのではないかと思います。

いずれにしても助成グループの皆さんお疲れさまでした。来年はもっと楽しくなるはずだと私は確信しています。

## 審査会委員講評



審査会委員  
菊池 洋光

皆さん、発表ありがとうございました。私の方から一言ずつお伝えさせていただきます。まず、「神保町フラメンコの会」ですね。お店を借りるイベントができなかったとのことですが、このようなときだからこそ、動画配信とか外注のノウハウを獲得していくべきではないかと思います。ぜひそういったところの研究を進めていただければと思います。

次に「おかゆスタンド」ですが、温かいおかゆを地域に配りたいというのが最初のコンセプトだったかと思うので、そのコンセプトは外さないでほしいと思います。それともう少しスケジュールに余裕を持って活動をされた方がよろしいかと思います。

次に「番長っこ倶楽部」ですが、活動が広がっているとのこと、とても喜ばしいことですが、活動が広がることによってコストがかかるかと思うので、活動費の獲得に力を入れてほしいと思います。

次に「神田でパンダ」ですが、地域交流や大学連携が非常にうまくいっているケースだと思います。今後はそういったノウハウを共有していただければと思います。

次に「ちよとも」です。毎回のテーマ設定がユニークで、参加者をあきさせない工夫がありました。今後もまちサポグループとコラボして、活動を続けてほしいと思います。

次に「グリーンネイバーフッド千代田を目指す会」です。私はハンドブックの作成や仕様に課題があると思いました。配布部数50部もやや少ないと思いますので、今後の活動に合わせて見直しを行ってほしいと思います。

次に普請部門の年度報告です。まずは「優美堂再生プロジェクト実行委員会」です。代表の中村さんがお住まいになられていることをはじめて知って驚きました。コミュニティの活性化に寄与されていますので、今後も活動を継続してほしいと思います。

次に「神田珈琲園再生プロジェクトチーム」です。双方のコミュニケーションの場として、今後も活動を続けてほしいと思います。

次に「秋葉原・旧旅館(東館)内ちよよちゃんとなるCafe」です。課題としては、秋葉原店と神保町店の両立だと思っています。まちサポでは、秋葉原店の活動を成功させる目的で進めてきたところですが、神保町店も成功されることを願っています。

最後に「海老原商店を活かす会」です。助成グループのリーダーとして、いままで培ってきたノウハウを皆さんに共有してほしいと思います。

皆さん、発表ありがとうございました。



審査会委員  
吉田 渉

活動発表ありがとうございました。審査から始まり、さまざまな活動報告をしていただいた中で、コロナ禍で「イベントができない」「活動ができない」という発言を聞いておりました。ただ、今回の活動発表の中で、皆さんさまざまな工夫をされて、見事活動の実施をされていたことに非常に感服しております。さらに活動を広げるために、周知方法の工夫や今までの参加者がなぜ参加したのかを振り返っていただいて、参加者を増やしていただく形をお願いしたいと思います。

「海老原商店」さんもおっしゃっていたのですが、参加していただいた方に関心を持つということもこれからの活動を広げるにあたって大事なことだと思います。いろいろなことがあると思いますが、失敗体験等も共有しながら活動を続けていただければと思います。

一日ありがとうございました。



審査会委員  
柿内 健介

皆さん、大変な状況でそれぞれの活動グループの課題をしっかりと分析されていて、今後のことを見据えていると気づかれています。私個人としては、はじめて部門のグループは、厳しいスタートだったかと思いますが、これを機会にチャレンジを続けてほしいと思います。また、コロナの状況も徐々に変わってくるかと思うので、そのときに合わせ工夫をして活動してほしいと思います。

「神田でパンダ」のイベントは多くの参加者がいて、その中には関係者・地域の方々もいらっしゃいました。今後規模の部分で大変な部分もあるかと思っています。現状を維持するのではなく、気運に任せて大きくしてほしいと思います。企業や町会の方々、大学生の協力も得て、一つ一つ大きくしてほしいと思います。

卒業されるグループの皆さんもいらっしゃいますが、せっかくの機会ですので「継続は力なり」と考え、今後はより充実させて大きくしてほしいと思います。ありがとうございました。お疲れさまでした。



審査会委員  
小野寺 健志

皆さんの創意工夫が現れていてとてもすばらしかったと思います。事務局の協力もあったかと思いますが、グループ間で問題意識を共有できたことはすばらしいことだと思います。千代田区にはさまざまな資源がありますので、千代田区とも相談しながら活動して、ノウハウを蓄積してほしいと思います。ノウハウを町会や商店街等に落とし込んでいただいて、その問題解決につなげていただければありがたいです。いくつかのグループから話がありましたが、まちづくり活動を継続するには、それなりの助成金も必要との意見がありました。これは議論の必要はありますが、活動経費自体の見直しを行う必要があるかと思っています。今後は制限付きかも知れませんが、リアルでの活動ができるかも知れませんので、さらなる活躍を期待しています。



審査会委員  
朝比奈 ゆり

皆さま、お疲れさまでした。これまでの委員の皆さんのコメントにあったとおり、私も同じ気持ちです。コロナ渦で気持ちを持ち続けて、活動に臨んでこられた皆さんには敬意を持っています。皆さんも同じ気持ちだと思いますが、グループの皆さんと直接お話できなかった、ディスカッションできなかったことが心残りです。それでも、オンラインでしかできなかった中でも、今後に向けて蓄積した経験は必ず生きてくると思っています。

今日のお話の中で、ニャンとなる会の古川さんのクラウドファンディングのお話は大変参考になりました。改めて顔を合わせることでつながっていくこと、そこから始まるということを確認しました。

特別なつながりをつくることにスキルが必要なのではなく、メンバーの一人一人が持っている人のつながりをもう一度見直すことが、シンプルでとても大事なことだと教わりました。これからやりたいことはたくさんあるかと思っています。その中で、自分たちのつながりも見直すことがとても大事だと思います。「おかゆスタンド」さんが「ほっとするコミュニティをつくりたい」とおっしゃっていたことが印象に残りました。さまざまなことがつながることで、皆さんのやりたいことが実現できると思いました。

本日はお疲れさまでした。



審査会副会長  
奥村 玄

今日発表いただいた皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

私は毎回驚いているのですが、今回も驚いています。皆さんの発想の自由さ、柔軟に対応されていること、ご苦労もあって試行錯誤されていること、そのようなことをすべてひっくるめて、驚いております。皆さんの共通の思いは、地域のコミュニティを活性化させたいということを考えて活動されていることです。

それにしても幅広いテーマがあると改めて思いました。音楽やダンス、生き物とのふれあい、食、人のセッション、人と自然を通じた形でのつながり、本当にいろいろな活動がありました。また、古い建物のパワーも改めて感じています。それぞれの建物に個性があり、柔軟なことを受け止める懐の深さを感じました。

すでに、ほかの委員の皆さんから、たくさんのお話をいただいているので、私からははじめて部門についてお話ししたいと思います。新しいことをはじめる場合、試行錯誤をしながら活動されることは尊い経験になると思います。多くの先輩方もそういうことをくぐり抜けてきたと思います。そのような先輩グループとつながることで、チャンネルが広がっていくと期待しています。

外に出て人が集まる場はたくさん見られます。つながり方はたくさんあるかと思っています。そのときに大事にしたいのは、参加されている方の生の声です。参考になれば幸いです。

卒業されるグループは資金調達についても意識していく必要があります。その大きな一つとして、本日クラウドファンディングを教わりました。そのようなノウハウを、知恵を貸し合える場がこれからもあることを期待しています。

本当に皆さんのことを教えていただきありがとうございました。お疲れさまでした。

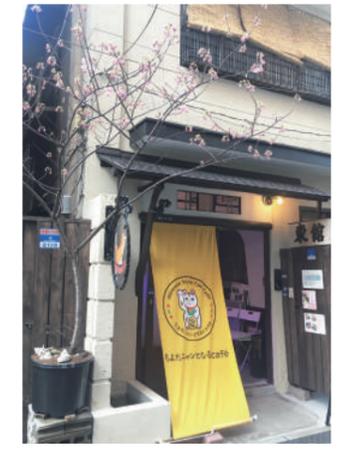
# Map 活動マップ



04  
神田でパンダ  
(神田錦町キンキン 広場、  
神田警察通りなど)



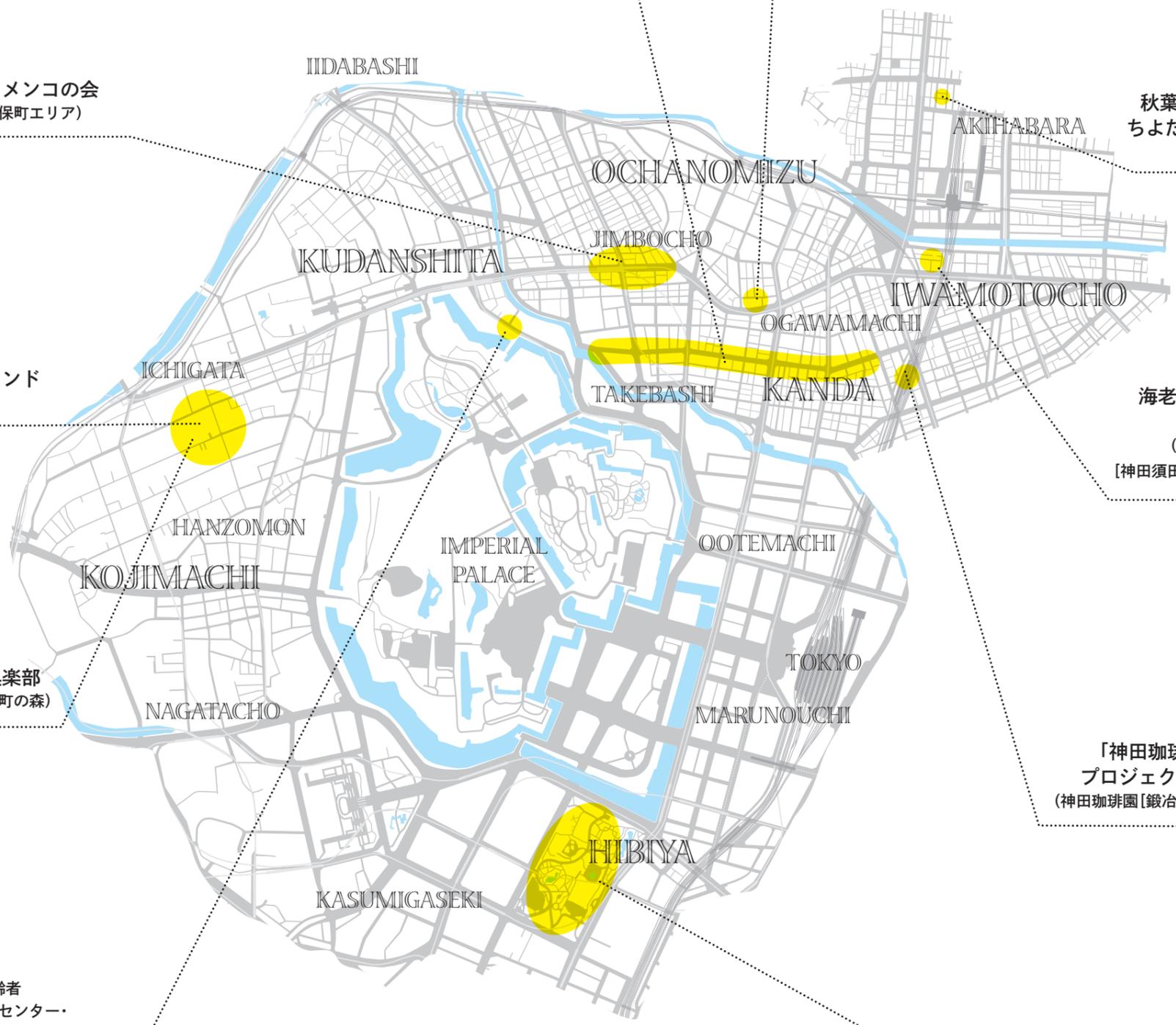
07  
優美堂  
再生プロジェクト  
実行委員会  
(優美堂[神田小川町2丁目])



09  
秋葉原・旧旅館【東館】内  
ちよだニャンとなるCafe  
(外神田4丁目)



01  
神保町フラメンコの会  
(御茶ノ水、神保町エリア)



おかゆスタンド  
コンセプト  
・コロナの影響もあり、これまで以上に地域のつながりが希薄になっている今を改善する、きっかけづくり。  
・この街であつたらしいな、と感じ、まだない『美味しいおかゆ』を通じて、地域の方々との交流を図りたい。  
・心温まり、おなかに優しいおかゆを、街のみなさんにも届けたい。

02  
おかゆスタンド  
(番町エリア)



03  
番町っこ倶楽部  
(番町の庭、番町の森)



05  
ちよとも  
(千代田区高齢者  
総合サポートセンター・  
かがやきプラザ 相談センター)



10  
海老原商店を  
活かす会  
(海老原商店  
[神田須田町2丁目])



08  
「神田珈琲園」再生  
プロジェクトチーム  
(神田珈琲園[鍛冶町2丁目])



06  
グリーンネイバーフッド  
千代田を目指す会  
(日比谷公園など)